

幼保小の連携・接続 東部地区幼稚園教諭・保育教諭・保育士等の合同研修会

10月30日（月）、県立福祉人材研修センターにて、第2回東部地区幼稚園教諭・保育教諭・保育士等の合同研修会を開催しました。本研修会は、毎年3～4回、東部地区の園や小学校等の先生方を対象として、様々なテーマで開催しています。今回のテーマは「幼保小連携・接続」でした。園の先生方だけでなく、小学校の先生方もたくさん参加くださいました。本研修会の様子を紹介します。

【研修講師】 國學院大學 人間開発学部 子ども支援学科

准教授 吉永 安里 氏

【講義名】 「架け橋期のカリキュラムの充実

～創造性と主体性を育むカリキュラムをつなぐ～



【ねらい】 架け橋期の教育・保育についての専門的な講義を聞いたり、園と小学校等で意見交換をしたりすることを通して、子どもの発達段階に応じた教育・保育内容について共通理解し、幼保小の円滑な接続に向けた取組の一層の充実を図る。

【研修の内容（大切にしてほしいこと）】

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、園での安心できる集団、先生の援助、環境構成の工夫があって見られた姿
→小学校ではその姿（資質能力）を発揮できる工夫を考えること
- 「架け橋期のカリキュラム」の作成を通して、小学校や幼児期の教育の在り方を見直すこと
- 2030年に向けた生徒エージェンシー（OECDラーニングコンパスより）→エージェンシー（主体性）自分の人生及び周りの世界に対してよい方向に影響を与える能力や意志をもつこと
- 創造性と主体性を発揮できる保育・授業を考えること
 - ①子どもの興味・関心から始める
 - ②対象との直接的な関わりを重視する
 - ③子どもとの対話によって活動を柔軟に構想する柔軟なカリキュラム

演習では、生活科の教科書を開いて、生活科の単元につながる幼児期の遊びについてグループで協議しました。

生活科の学びにつなげるために、園ではこういった体験が必要なのかな。



小学校では、園での経験を生かした学習を考えたいな。

例えば、

子ども達から出た疑問を付箋に書き出し、一つずつ子ども達と解決していく子どもの思いや願いを大切にした授業づくり

参加した方の感想

・幼保小のカリキュラムをつなぐ際、主体性の発揮という視点で互いのカリキュラムを考えることで、学びの連続性を捉えやすくなる。また、小学校においては、幼児期の育ちや学びを生活や学習でどのように生かすかを具体的に考えることが、カリキュラム作成につながると感じた。

・園と小学校の先生が互いの保育・教育について話し合い、幼児期のような自由に発言できる環境づくりや子どもの思いを大切にした授業構成などにつないでいくことが必要だと感じた。

鳥取県架け橋期のカリキュラムの検討・開発のポイント（令和5年6月に各園・小学校等に配布）

架け橋期…5歳児の初めから1年生の終わりまでの2年間
カリキュラムの作成に向けて

- ①期待する子ども像を話し合う。
- ②共通の視点で話し合い、相互理解したことをカリキュラムに残していく。

共通の視点

- ・具体的な姿を育みたい資質能力で捉える
- ・期待する子ども像につながる活動や学習
- ・環境構成の工夫や先生の援助について、等…



裏面をご覧ください。



幼児期の直接的な体験や遊びを通して育まれた主体性は小学校以降の「主体的な学び」に、友達や保育者との温かいやりとりの中で育まれた協同性やコミュニケーション力は「対話的な学び」につながっています。幼児期の教育、小学校教育をお互いが理解し、それぞれのよさや違いを知り、子どもの育ちと学びをどうつなぐか、各市町や校区において協議を進めていくことから始めましょう。

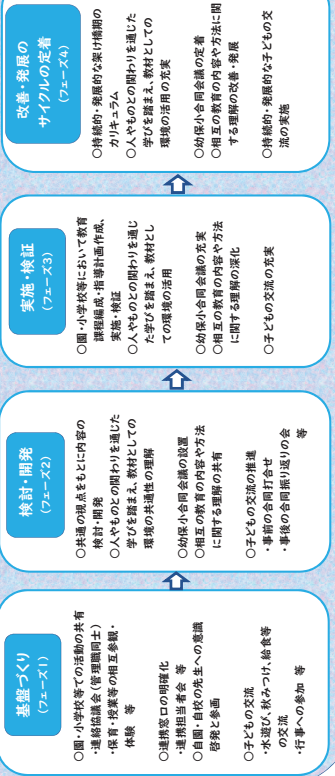
育ちと学びをつなぐ 幼保小の連携・接続 ～鳥取県架け橋期のカリキュラムの検討・開発のポイント～

令和5年6月

1 「架け橋期のカリキュラム」の進め方を確かめよう！

園・小学校等での具体化の進め方(各フェーズ)のイメージ

※手引きP.15,34,48
※鳥取県幼保小連携ハンドブック「育ちと学びをつなぐ」P.9～14 参照



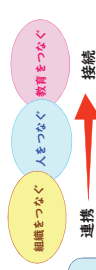
2 「架け橋期のカリキュラム」を進める過程で大切にしたいことを共通理解しよう！

- 子どもの育ち(姿)を中心に対話しよう！**
- 話ろう！** 子どもたちのこと
実際の子どもたちの様子を一緒に見る機会をもちましょう。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点を語り合います。
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児期において育みたい資質・能力が育まれている具体的な姿です。
- 相談しよう！** 期待する子ども像(めざす子ども像)
市町村・校区でどんな子どもを育てたいか話し合い、定めましょう。この姿をめざして園・小学校等それぞれの取組を考えます。
- 知ろう！** 園のこと、学校のこと
それぞれに尊重すべき違いがあります。一方が他方に合わせるということではありません。互いの教育内容・大切にしている指導や支援を知ることで大切で、
- つなげよう！** 育みたい資質・能力
園と小学校等が共通の視点について話し合うことで、指導内容や指導・支援が、具体的かつ系統的につながります。
- 連続性・一貫性のあるカリキュラムに** ～園と小学校等とともに～
互いに学び合い、カリキュラム・教育方法の改善を進めていきましょう。

架け橋期(5歳児4月から小学校1年生3月まで)の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期です。子どもたちの育ちと学びのつながりを園と小学校等の先生と一緒に考えていきましょう。

3 「架け橋期のカリキュラム」を検討・開発しよう！

- ①ここからスタート！
「期待する子ども像(めざす子ども像)」を園と小学校等で共有しよう。
- ②園と小学校等が共通の視点で話し合い、互いに理解し合おう。
- ③話し合ったことを「架け橋期のカリキュラム」として可視化しよう。



5歳児 小学校1年生

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

架け橋期の2年間を通して、どのような子どもを育てたいか。※手引きP.24,25
・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにし、保育や学習、生活の場から具体的な子どもの姿をあげて話し合う。

共通の視点として考えられる項目(例)	期待する子ども像(めざす子ども像)	育みたい資質・能力
・「期待する子ども像」を園と小学校等で共有しよう。	・「期待する子ども像」を園と小学校等で共有しよう。	・「期待する子ども像」を園と小学校等で共有しよう。

園で展開される活動 ・小学校の生活科を中心とした各教科等の ・小学校等 ・園と小学校等	共通の視点として ・「期待する子ども像」を園と小学校等で共有しよう。	共通の視点として ・「期待する子ども像」を園と小学校等で共有しよう。
--	---------------------------------------	---------------------------------------

「架け橋期のカリキュラム」は、幼児期の先生が協議し、共通の視点をもつて教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視座に入れたから策定できるように工夫しましょう。※手引きP.21

※手引き...「幼児期の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版) 参照 (令和4年3月31日 文部科学省)